



令和6年度「ちっちゃい探検隊（夏）」実施報告書

I 事業の概要

1. 期日 令和6年6月29日(土)～30日(日) 泊2日

2. ねらい

- ・親元を離れ、大自然の中で仲間と生活することを通して、自分で行動する自信をつける。
- ・班の中で自分の意見を言えたり、友だちの意見を聞いたりすることができる。
- ・友だちと力を合わせることを楽しいと感じることができる。



3. 参加対象 小学校1～3年生

4. 応募者 73名

5. 参加者 35名 (大学生ボランティア 16名)

6. 参加費 3,300円

7. 日程



6月29日(土)		6月30日(日)	
10:30	受付開始	6:30	起床
11:00	初めまして!ちっちゃい忍者たち(出会いのつどい)	7:00	おはよう!ちっちゃい忍者たち(朝のつどい)
11:30	船上流忍者遊戯(レクリエーション)	7:30	「船上流忍者宿舎清掃」(そうじ)
12:15	ひるげ(昼食)	8:00	あさげ(朝食)
13:30	オリエンテーション・荷物移動	8:50	退所点検
14:00	「船上流忍者道具作り」	9:00	修行③「船上流忍者曲者探し」
15:00	修行①「船上流忍者修行」	10:10	船上流忍者認定祝いピザ宴
17:30	ゆうげ(夕食)	13:30	片付け完了・感想記入
19:00	修行②「船上流忍者暗闇修行」	14:00	発表練習
20:00	湯あみ(入浴)・就寝準備	14:30	さらば!ちっちゃい忍者たち(別れのつどい)
21:30	消灯		

II 実施状況

■1日目の活動の様子<6月29日(土)天候 晴>

35名の子どもたちと学生サポーター16名が参加して、ちっちゃい探検隊(夏)がスタートした。出会いのつどいの後、突然「船上流忍者隊」が子どもたちの前に現れ、一緒に修行することを告げる。まずは、交流レクで参加者同士の距離がぐっと縮まる。昼食後は、忍者修行で使用する鎧作り。立派な鎧ができた後、つどいの広場でいよいよ最初の忍者修行「船上流水鉄砲合戦」を行った。船上流忍者隊は3名。対するちっちゃい忍者隊はグループを3つに分け、3回対戦を行った。見事忍者隊の的を撃ち落とし、ちっちゃい忍者隊の勝利となった。



夕食後の忍者修行②「船上流暗闇修行」では、忍法くぐりぬけの術や忍法秘密の数字当てなど、班で協力してゲームをクリアしていった。参加者の意欲をかき立てるようなネーミングや活動内容を工夫することで、どの班の子どもも最後まで粘り強く取り組むことができた。皆の頑張りを称え、明日はピザパーティーを行うことを告げ、1日目を終えた。



■2日目の活動の様子<6月30日(日)天候 晴>

2日目はエビカニクス体操で元気よくスタート。おいしく朝食をいただいた後、最後の忍者修行「船上流曲者探し」の説明。ところが、忍者隊がピザパーティーで使う「チーズ」「オリーブオイル」「ピザソース」を秘密の場所に隠してしまった。館内の地図を頼りに3人が持っているレシピを見つけようというもの。各班で協力し、どの班も無事にレシピを見つけ出すことができた。食堂へ移動し、いよいよお楽しみのピザ作り。自分たちで頑張って作りあげたピザを食べ、どの子ども満足そうであった。



最後の別れのつどいは、代表の子どもと学生サポーターが感想を発表し合った。学生サポーターとの別れに涙する子どももあり、名残惜しい雰囲気となった。学生サポーターと職員が保護者と子どもを見送り、全ての日程を無事に終えることができた。



Ⅲ 総括

1. 参加者の感想(抜粋)

- ・ みんなできょうりよくしてピザを作ったり、みんなでおしゃべりしたりするのが楽しかったです。
- ・ わたしが楽しかったのはくらやみしゅぎょうです。りゅうはくらやみのなかであそんで、前さんかしたときとちがった友だちができたからうれしかったです。
- ・ 一つめのしゅぎょうで、水でっぼうをつかって大学生とあそんだことが心にとりました。また、水でっぼうであそびたいです。

2. 成果

- ・ 指導員や船上忍者隊の話を静かに聞くために、子どもたちと約束(はっとり君の音楽が流れたら右手を挙げて静かにする)を設けることで、しっかりと聞く姿勢がとれた。
- ・ 大学生に忍者隊をお願いしたり、イニシアティブゲームを担当してもらったりして、できるだけ学生が活躍する場を設けることができた。
- ・ 新しく水鉄砲合戦という参加者の興味や関心を引く活動を企画することができた。今後も、児童が参加したくなるような企画を考えていきたい。



3. 課題

- ・ 活動面だけを充実させるのではなく、例えば、食堂を利用した後の片付けや使用した布団の直しなど、参加者ができることは最後まで責任をもって行わせる内容を提供していきたい。
- ・ 今回参加した大学生サポーターの多くが1・2年生であった。学生たちが、次回、更には来年度のちっちゃい探検隊にこの経験を生かせるような魅力ある企画を計画していきたい。

